

先生方へ

生徒指導について、生徒一人一人の状況をていねいに把握したうえで指導していただきありがとうございます。

中大会も近くなり、部活動指導・学級指導など生徒の様子で気になることが多いです。指導すべきは「わからせて」、「反省させる」、「次につながる」指導をお願いします。

生徒の中に指導を受ける際、「笑ったり」、「ふざけた態度をとったり」する者がいます。心が育っていない生徒達です。関わりを深くもたなければならぬ生徒達です。一部の先生ではなく全体でみていきますので、指導での困り感など遠慮なく共有していきましょう。

気になる生徒の指導では、感情的になりがちです。指導したことが、謝罪することになり、立場が逆転することは、生徒にとってよい影響がありません。

体罰に頼らない指導を皆さんで徹底するようお願いします。

長崎先生 5/24(金)

長崎新聞

長

崎

新

聞

2019年(令和元年)5月24日 金曜日 地域総合

県内公立学校 体罰3年ぶり増

県内公立学校の体罰の実態把握調査

(単位:人)	2014年度	15年度	16年度	17年度	18年度
体罰をした教職員数	52	58	52	32	38
体罰を受けた児童生徒数	89	124	101	38	74
負傷した児童生徒数	6	13	17	6	3

「素手でたたく」など教職員38人

（嶋田嘉子）

県教委は再発防止のため、体罰で処分する指導を受けた教職員向けに、怒りの感情をコントロールする「アンガーマネジメント」などの研修を義務づけている。体罰根絶に至らない実態について高崎市教育課の本村公秀人事管理監は「憂慮すべき問題。体罰は児童生徒の心に深刻な影響を与えてしまう」としている。

同日の定例教育委員会で報告した。それによる特支援学校で体罰を受けた児童生徒は前年度より36人多い74人だったと明らかにした。このうち3人が打撲など負傷。体罰をした教職員は前年度より6人多い38人だった。体罰をした教職員数と被害児童生徒数は、いずれも3年ぶりの増加。

被害児童生徒74人

18年度 県教委公表

県教委は23日、2018年度に県内の公立小中高校で、体罰を受けた児童生徒は前年度より36人多い74人だったと明らかにした。このうち3人が打撲など負傷。体罰をした教職員は前年度より6人多い38人だった。体罰をした教職員数と被害児童生徒数は、いずれも3年ぶりの増加。

先生方へ

定期テストの問題作成・採点ありがとうございます。また、生徒達のテストに臨む姿勢についても各教科・学級で指導していただきありがとうございます。

体罰と不適切な指導に関する記事が新聞に載っていました。指導の構えについて共有したいと思い、準備しましたので目を通していただければと思います。

今回の事案に至った背景や状況の詳細はわかりません。ただ一つ言えることは、指導者は教師の使命を真に自覚できていなかったと思います。もしくは自分の立場への自信が驕りとなってしまっていたのではと思います。

私は、生徒一人一人の人格を尊重する姿勢を常に意識すること。そして、生徒が「より良く生きたい」、「もっと伸びたい」と根っこにもっている心情を引き出し、大きくしてやる指導や支援に努めること。生徒に対する時、この二つのことを忘れてはならないと自分に言い聞かせています。

私の今までの指導の反省もこめて長々と書いてしまいましたが、この機会に「自分はちゃんとしているか」振り返ることができました。(裏面に私が大切にしている言葉を載せています)

先生方もこの一つの事例を自分に置き換えてみて振り返りをしていただければと思います。

先生方と一緒に「生徒の可能性を最大限に引き出す学校」、「一人一人を大切にする温かみのある学校」をつくりたいと思っています。

先生方の生徒への関わりを見て、この世知原中の子ども達は恵まれていると思います。また先生方の日ごろの指導支援に感謝するばかりです。

私の向いている方向が間違っていたり、学校の指導方針がぶれたりしていたら教えてください。また、こうしたらもっと学校が良くなるのにと思われていることがあつたら積極的に提案してください。

よろしくお願ひします。

令和元年7月3日 校長 栗林 俊明

生徒の自殺前から
「不適切指導」指摘

7/3
長崎新聞

さいたま市立南浦和中1年男子生徒=当時(13)=が昨年8月に自殺し、遺族と訴えている問題で、市教育委員会は2日、記者会見し、生徒の自殺前から顧問の不適切な指導を指摘する声が相次いでいたと明らかにした。母親と市教委によると、男子生徒は夏休み中の8月26日、部活に向かう途中で自殺した。その後に実

→施された部活に関するアンケートでは、バドミントン部で顧問から「おまえ、存続する意味あるのか」などと暴言を吐かれたと答えた部員がいた。「(男子生徒が)圧をかけられていた」との回答もあった。

また自殺以前の昨年4月の体罰に関するアンケートで、4人の部員から「胸ぐらをつかまれた」などの回答があり、校長が顧問を指導していた。顧問は保護者会で謝罪したが、同年7月には保護者から顧問を変えてほしいとの要望もあつた。ただ顧問は処分を受けず、異動する今春まで部の顧問を続けた。市教委の吉田賀一指導課長は「一連の対応に不手際はなかつたと考えている」と説明した。

調査する方針。
市教委は第三者委員会で

不祥事防止のための緊急メッセージ

教職員の皆さんへ

各学校では、子どもたちの確かな成長を目指し、全教職員が保護者や地域の方々からの信頼を力強い支えとしながら、教育活動を展開しています。

特に、子どもたちは、心から信頼できる教職員に導かることにより、学ぶことの大切さや喜びを知り、自らの可能性を拓いていくものです。

一方で、これら築き上げてきた信頼を根底から打ち崩し、学校教育への期待を裏切る行為が、教職員による不祥事です。また、自らの家族をも不幸に陥れることにもなります。

平成28年度以降、飲酒運転事案が発生していないなど、不祥事根絶に向けた歩みを皆さんと共に進めてまいりました。しかしながら、わいせつ行為に係る不祥事が続いていることになり、本年度になり4件の懲戒処分を行いました。

わいせつ行為は、子どもたちを教え導く使命と立場、その職にあることの矜持を忘れた蛮行であり、倫理観や正義感が著しく欠落した恥すべき行為です。

不祥事を起こした者は一部とは言え、皆さんと同じ教職員であることは事実であり、正に痛恨の極み、本県学校教育の根幹が問われる事態です。

わいせつ行為の要因は、個人の心理に深くかかわり、他人が踏み込みにくいものです。だからこそ、自らの心の闇に正対し、自らを律する覚悟が求められます。

絶えず「これでよいのか」と自問してください。

教職員の不祥事はあってはならないものです。

皆さん一人一人が、不祥事を根絶し教育への信頼を築く圧倒的当事者であることを深く心に刻んでください。本県学校教育に携わる者としての誇りを胸に、日々、子どもたちを学校で迎えましょう。

令和元年10月11日

長崎県教育委員会

教育長 池松誠二

12/24
TUES

12/22 長崎新聞

岐阜市立中3年の男子生徒が7月、いじめを受けていたことを示唆するメモを残してマンションから飛び降り自殺した問題で、市の第三者委員会が、いじめをしていた同級生の一部から聞き取りができず調査を終えたことが21日、関係者への取材で分かった。

聞き取りができなかつたのは、男子生徒の死亡前日の休み時間に、学校のトイレスで十人座を強要した同級生の男子生徒3人のうち一部。文部科学省の指針では、生徒にアンケートや聞き取りを実施することは保護者の理解を得る必要がある。

レッカウ 対応アドバイス 異動不規則 = 2,212

13/24 長崎新聞

岐阜中3自殺

市教委が報告書 いじめ主要因

岐阜市立中3年の男子生徒(14)が7月、いじめを受けたことを示唆するメモを残してマンションから飛び降り自殺した問題で、市教育委員会は23日、「自殺の主要因は同級生によるいじめだった」とする第三者委員会が取りまとめた報告書を公表した。教員の情報共有や連携といった組織的対応が不十分だったことでの「激化を止める」とか「なかつた」と学校側の対応を批判した。

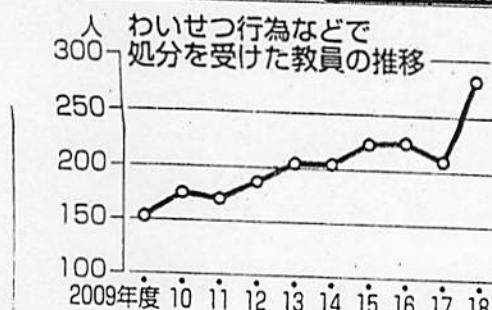
第三者委によると、いじめは一年生の時から行われていたが、生徒が自殺する約1カ月前から激化。同級生の女子生徒が5月末、牛徒が同級生からいじめに遭つていると訴えるメモを担任に渡したが、担任は管理職と共有せず紛失した。

6月には別の生徒が定期アンケートに男子生徒へのいじめを心配する声を記載しはじめと疑われる行為を具体的に書いていたが、担任は原文を簡略化し書き換えた。

て学年主任に報告し、聞かれて取りなとはしなかった。

報告書ではこうした対応を「組織として対処する意識がなかった」と批判。教員間でいじめへの認識にずれがあつたり、男子生徒やメモを渡した女子生徒の保護者に一度も連絡しなかつたりするなど連携が不十分だったと指摘した。

再発防止策として、いじめやいじめの疑いがある行為への対応は、正確に記録し複数の教員で確認するなどとなどを提言。いじめ対策に専念できる環境を整え、教員の多様化解消に積極的に取り組むとともに求めた。



文科省は、わいせつ行為などでの処分が過去最多となつたことに「SNS（会員制交流サイト）の普及で教員と子どもが学校外でもつながりやすくなっていることが一因ではないか」と指摘。繰り返し処分を受けた教員が教壇に立てないよ

同僚パワハラ初集計32人

懲戒処分の内訳は、免職163人、停職57人、減給18人、戒告7人、訓告などが37人だった。全体の97・9%となる276人が男性で、学校種別では小学校75人、中学校86人、高校101人、特別支援学校19人、中等教育学校1人だった。

初めて集計したパワーハラ

授（**教育学**）の話 多くの教員がわいせつ行為などで処分を受ける背景には、学習評価や部活の指導などを通じて子どもに絶対的な権力を行使しながら、それを自覚していないことがある。普段からその力を感じている子どもは、嫌なことをされてもなかなか言不出せないが、教員は拒否されなければ大丈夫だと思い込みがちだ。研修などを通じ、教員が自身の権力を意識することが、被害を減らす一步になる。

2018年度に全国の公立小中高校などでわいせつ行為やセクハラを理由に処分を受けた教員は計282人（本県3人）で、過去最多となつたことが24日、文部科学省の調査で分かつた。これまで最多の16年度を56人上回る大幅増だった。神戸市立東須磨小で教諭4人が同僚をいじめていた問題を受け、文科省が初集計した教職員間のパワハラなどによる処分は32人だった。

「SNSでつながり」一因か

わいせつ教員処分最多 282人

18年度文科省調査